

1 結果

WYT, CGE の 2 配列とも沈殿を得ることができなかった。

2 考察

石井さんと共同で実験を行い、石井さんが使用した 6 残基程度のペプチドにおいて沈殿を得ることができた。また、-80 度での保存によっても沈殿が確認された。この結果から、ペプチド合成に関する操作には問題がないと考えられる。

しかし、ペプチドの脱保護および沈殿に関する操作には改善の余地があることが言える。この問題について再度横野さんに相談した結果、次の提案をいただいた。Tripeptide に関しては、チオアニソール、フェノール、EDT の使用は不要であり、これらが Heptan/TBME と相互作用を持つ可能性が指摘された。92.5% TFA、2.5% Water、5.0% TIS のカクテルを使用することが推奨された。また、沈殿のしやすさはシーケンスに依存するため、沈殿が得られにくい場合には Heptan/TBME の量を増やす必要がある。特に、現在使用している量の倍量を試してみることが推奨された。さらに、水の量は 750 μ L に対して 2-3 滴 (5-10 μ L) であり、Heptan/TBME が分離しない範囲で水を加えることが推奨された。分離が起こると、沈殿が困難になる可能性があるためである。

今回の実験では、水が分離してしまったため、次回は分離しない範囲で水を加えることを検討する。また、カクテルの組成を変更すること、Heptan/TBME の量を増やすことも検討する。